

会議録（要点筆記）

会議名	第2回 米原市総合教育会議
開催日時	平成27年8月7日（金）16時～17時30分
開催場所	米原市民交流プラザ 2階 研修室
出席者および欠席者	<p>構成員</p> <p>平尾道雄市長、山本太一教育長、稲村邦夫教育委員、河居郁夫教育委員、小路英美恵教育委員、本庄通子教育委員</p> <p>事務局</p> <p>田中博之教育部長、岡田克美学校教育課長、仲谷良徳教育総務課長、藤岡保教育総務課長補佐、山田英喜政策推進部理事、小寺真司政策推進課長補佐ほか担当職員2人</p> <p>傍聴者</p> <p>1人</p>
議題	<ul style="list-style-type: none"> ・米原市教育大綱の位置付けと期間について ・米原市教育大綱に盛り込むべき内容について
審議経過	<p>事務局</p> <p>1 開会 （事務局から開会あいさつ）</p> <p>市長</p> <p>2 市長あいさつ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回5月18日の第1回の会議では、米原市の教育について、地域とともに歩む学校づくり、また、学び合い、育ち合い、支え合う教育の必要性など、委員の皆様方から様々な貴重な御意見を賜りました。 <p>本日は、米原市教育大綱の策定について、具体的に大綱に盛り込むべき内容を御協議いただきたく、皆様から忌憚ない御意見を賜りたいと考えておりますので、よろしく申し上げます。</p> <p>事務局</p> <p>3 協議事項</p> <p>（1）米原市教育大綱の位置付けと期間について（資料1）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局から資料1に基づき、米原市教育大綱の位置付けと期間について説明した。 <p>米原市教育大綱は、平成28年度に見直しを行う「米原市教育振興基本計画」の骨子となる部分をもって大綱として定めるものとし、その期間は、平成29年度から平成33年度までとすることを説明した。</p> <p>事務局</p> <p>（2）米原市教育大綱に盛り込むべき内容について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回会議で出たキーワードについて（資料2） ・事務局から資料2に基づき、第1回会議の中で米原市の教育について出たキーワードを説明した。

<p>学校教育課</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・魅力ある学校づくりについて（資料3） ・前回に出たキーワードに関連して、現在市で進めている魅力ある学校づくりの事業について、学校教育課から資料3に基づき説明した。小学校・中学校の連携を縦糸、地域との連携を横糸と考え、縦と横の糸を太くしていくことで、学力・生活力・生きる力を育む「魅力ある学校づくり」の取組、地域支援コーディネーターを配置し、地域に根ざした特色ある学校づくりを推進する「学校支援地域本部事業」の取組、中学校教員が小学生に授業を行う専科指導を推進するなど小中学校間の連携・接続を図る「小中連携教育推進事業」の取組について説明した。
<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・第2次米原市総合計画七夕アンケートの集計結果について（資料4） ・第2次米原市総合計画の策定作業の中で小中学生を対象に実施したアンケートについて、資料4に基づき説明した。
<p>教育長</p>	<p>協議事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特色ある学校づくり支援事業は2年前から予算を付け取り組んでおり、各学校が地域の実態に応じて、地域の人材と協力して地域の特色を出している。また、各中学校区で保幼小中の連携組織ができており、校園長の間での情報共有も活発に行っている。例えば、双葉中学校では、認定こども園が近いことから避難訓練を一緒に行ったり、大東中学校区では、小中で講師を呼び、学力向上に取り組んだりしている。教育フォーラムについても、地域の人を招き、開かれた教育フォーラムが開催されている。このように、市を挙げて学び合いの場づくりを進めている。これらを教育振興計画、教育大綱の中に取り入れていただけるとありがたい。
<p>委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・魅力ある学校づくりとあるが、魅力ある学校をどう捉えるか議論していくべきではないか。地域の人を学校に受け入れ、交流するのはいいが、それがプラスとなるものでないといけない。子どもが主体となる授業や、地域の人とともに体験しながら学ぶことが必要であり、その実現には地域のネットワーク構築が重要になるのではないか。
<p>教育長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・国においてもアクティブラーニングといった、子どもたちが能動的に学ぶことが求められている。魅力ある授業が魅力ある学校につながる。机の上の学びではなく、体験・実験していき、明日も勉強したいなど思える学校づくりが大切である。学校支援地域本部事業は、いろいろな人材が学校にやってきて教えてもらえる。小規模でありながらもいろいろな人の出入りによって学べる環境は、米原市の教育の特色にできるのではないか。

委員	<ul style="list-style-type: none"> ・学校は地域の中で学校という枠を外れてボーダレスになっている。しかし、開かれた学校とするには、子どもたちの情報や人権を同時に担保していく必要がある。
教育長	<ul style="list-style-type: none"> ・学校に地域の人に関わってもらい、人々の目が学校に注がれることによって、安全も高まっていくのではないか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人材が入ってくれることはいいが、どんな人が来るか、それを見る目や呼び込む力が教師に必要なになってくるのではないか。
教育長	<ul style="list-style-type: none"> ・学校支援地域本部事業は、コーディネーターが中心となって事業を行っている。地域をよく知るコーディネーターを通じ地域人材を探していただいている。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・魅力ある学校づくりの説明資料について、地域住民やボランティアと学校の間を横の糸として図示してあるが、矢印が学校への方向しかない。本来連携の中で学校が主体になるが、これからは生涯学習の視点から、学校支援ボランティア、地域の人と一緒に学び合っていくものではないか。地域全体が学んでいくことで、いじめ問題など子どもへの理解も深まるのではないか。
学校教育課長	<ul style="list-style-type: none"> ・一方的に提供する立場では、お互い長続きしないと考える。御指摘どおり、矢印は双方向がよい。
市長	<ul style="list-style-type: none"> ・「魅力ある」という言葉は学校教育によく使われているのか。
学校教育課長	<ul style="list-style-type: none"> ・地方創生の議論の中で、この言葉を使うようになった。ただし売りの文言ではなく最終的に目指すものは学力向上であり、魅力あるという言葉は、結果的にそうなるもらいたいという思いがある。
教育長	<ul style="list-style-type: none"> ・明日も学校に行き学びたいというのが一番の本質である。
市長	<ul style="list-style-type: none"> ・今月の市長訓示で話したことであるが、ある親から学校を選ぶ第一の条件として、いじめのない学校に子どもをやりたいと言われた。大事なことは、学校やPTAだけでなく、社会全体、地域全体が子どもたちを育て、その中で、もし、いじめや差別の問題が出たら、親や学校の責任でもなく地域の責任としてしっかりと向き合っていくこと。これに答える学校づくり、地域づくりが魅力ある学校づくりにつながっていくと考えている。

教育長	<ul style="list-style-type: none"> 学校は集団で活動する場であり、人格と人格がぶつかり合うことは避けられず、大なり小なりいじめもあるが、それをみんなの問題としてとらえて解決に向かう力を育てていく人権教育がベースにある学校であることが一番大事である。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 現在の米原市教育振興基本計画の基本理念「学校・家庭・地域の絆で築く学びのまちづくり」を念頭に置いて次回は議論していくべきではないか。 米原市になって米原教育が何か芽が出かけている。他市から、米原の教育の印象を聞くと米原市は教育熱心であるという印象がある。米原市には先生方が一丸となって取り組んでいる風土があり、これらを大切にしていきたい。
教育長	<ul style="list-style-type: none"> 学校教育に絞られてしまう。米原市の総合教育会議として、社会教育も含めた幅広い分野を生涯にわたってみんなが学ぼうとする意欲、姿勢を培っていただきたいという思いがある。
委員	<ul style="list-style-type: none"> おっしゃるように社会教育も含め、視点を幅広い世代に向けてもいいのではと思う。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 特色ある学校づくりの中で、校歌に着目している。校歌には米原の豊かな自然や歴史、伝統的な文化、校風や教訓、目指していく子どもたちの像などが歌詞の中に込められている。校歌に込められた意味を理解することで、ふるさとへの愛着、郷土の誇りにつながるのではないかな。
市長	<ul style="list-style-type: none"> 特色のある学校づくり事業の地域学習について、米原教育とどうつながるのか。どの程度意図的に学習を行っているのか教えていただきたい。
教育長	<ul style="list-style-type: none"> 山東ではほたる祭りの取り組み、河南小中学校では鎌刃城へ登っての歴史学習、柏原学区では大野木の竹やぶでの体験学習、双葉中学区ではかぶと山でオオムラサキの生育に取り組んでいる。様々な地域で地域学習が定着している。
市長	<ul style="list-style-type: none"> ある大学の新生生の誓いで、「私がこの大学に入学したのは、故郷に帰って地域の発展に尽くしたいからである。」と言った話を聞いた。その子は徹底した地域学習を受けてきたとのことである。米原教育でも自分の郷土に貢献していく人材の育成を掲げたい。
教育長	<ul style="list-style-type: none"> 郷土に誇りを持つ自己肯定感は人のために尽くしていこうというステージにつながる。この地域で学べてよかった、自分が育てられた、助けられた郷土に恩返しするという好循環が生まれる。

委員	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人とともに歩むことについて、学校サイドで考えるとどうしても学校だけの校長でとどまってしまう。そここのところの意識改革が必要。学校にボランティアに行っても先生が協力的でなかったりする。校長は学校の中だけのトップではなく、地域の中でもコーディネートできる人でもあるべき。
教育長	<ul style="list-style-type: none"> ・学校がどこまで地域に目を向けられるかは校長にかかってくる。また校長の思いを教師がどれだけ理解できているかが問われている。外から入ってくる人には、受け入れる先生の姿勢が学校の印象につながる。
市長	<ul style="list-style-type: none"> ・行政側としても地域振興、自治振興を行っているものとして、その中にある学校の存在を別としてしまうことなく、地域と学校との関係をリードしたり、学校を取り込んだ地域計画をつくっていくべきである。
教育長	<ul style="list-style-type: none"> ・国が進めているコミュニティースクールは学校運営協議会という組織が学校運営を進めている。このスタイルは大事である。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校で行っている職場体験では、たくさんの企業から協力をいただいている。学生が感謝状をつくり、学校で職場体験の発表会があるが、市で職場体験の発表会を開催して、企業を招くことができればさらに地域の広がりが生まれるのではないか。
教育長	<ul style="list-style-type: none"> ・学校単独で発表会をしているところは、お世話になった企業を招待しているが仕事があるので参加は少ない。市全体でできることはいい機会になるのでは。
市長	<ul style="list-style-type: none"> ・大人にとっても子どもと接する機会が減ってきており、子どもとうまく接することができない現状がある。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・前回のキーワードに挙がっていた総合型スポーツクラブは、子どもと接する機会を増やすチャンネルであると考え。これまでは学校や企業の活動にウエイトが大きかったが、地域型のスポーツを推進することで市民は学校の子どもの接する機会が増え、さらに世代間での交流が行えるのでは。
教育長	<ul style="list-style-type: none"> ・これからのスポーツ振興、スポーツコミュニティーづくりとして、総合型スポーツクラブがどれだけ地元で根を張るかが課題である。

事務局	<p>4 その他</p> <ul style="list-style-type: none">・ 次回の会議は、秋以降に行いたい。・ 庁舎等整備基本構想について簡単に説明を行った。・ 学校教育課から 11 月 13 日に伊吹小学校において、生活科・総合的な学習の近畿大会開催の案内を行った。 <p>5 閉会</p> <p>17 時 30 分終了</p>
-----	--